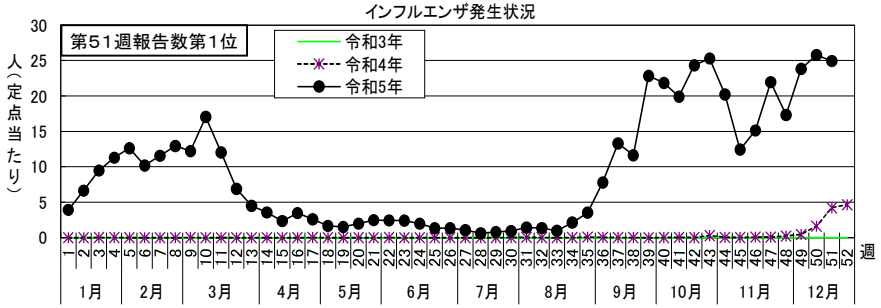
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

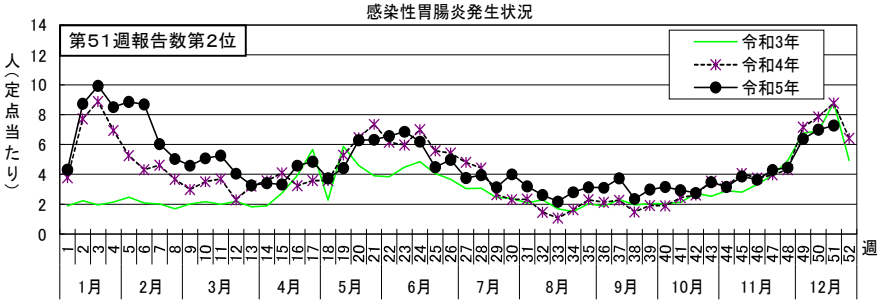
令和５年１２月１８日（月）～令和５年１２月２４日（日）〔令和５年第５１週〕の感染症発生状況

第５１週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、１）**インフルエンザ**　２）**感染性胃腸炎**　３）**Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎**でした。
インフルエンザの定点当たり患者報告数は２４．９５人と前週（２５．７９人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は７．２８人と前週（７．００人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は５．５８人と前週（６．５７人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。

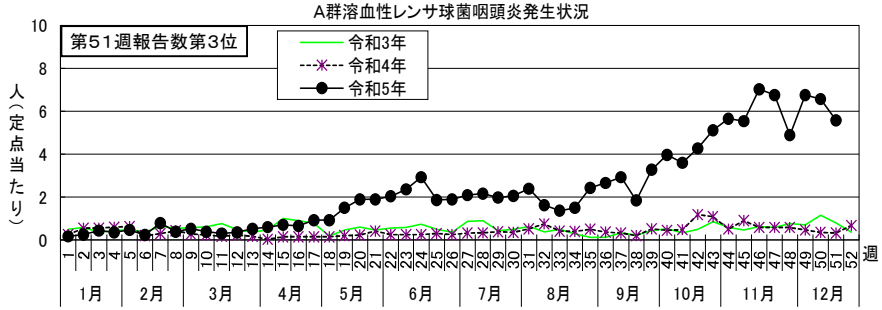
インフルエンザ発生状況



感染性胃腸炎発生状況



Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況



水痘（水ぼうそう）の地域的な流行がみられています！

水痘は、水痘帯状疱しんウイルス（ＶＺＶ）の初感染によって引き起こされる感染症です。平成２６年１０月に、小児の水痘ワクチンが定期接種化されたことで、全国的に水痘の患者報告数は減少しました。しかし、川崎市においては、令和５年１１月下旬から水痘の報告数がやや増加し、第５１週（１２月１８日～２４日）の定点当たり報告数は０．５６人となりました。特に宮前区では２．６７人と、警報基準値（定点当たり２．００人）を超えています。

ＶＺＶは水痘だけでなく、帯状疱しんの原因ともなり、帯状疱しんの患者から感染することもありますので、特に免疫のない方等は注意が必要です。

水痘とは？

【病原体】
水痘帯状疱しんウイルス（ＶＺＶ）

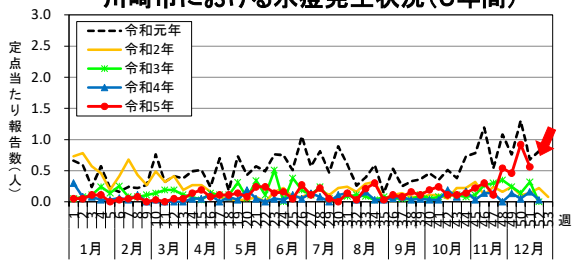
【感染経路】
空気感染、飛沫感染、接触感染

【潜伏期間】
２週間程度（１０～２１日）

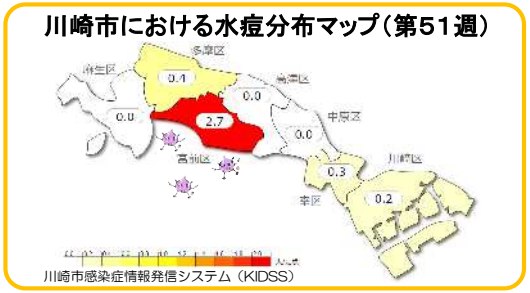
【症状】
発しん、３８度前後の発熱、かゆみ等

※VZVは、感染後、生涯にわたって神経に潜伏し、加齢や疲労等による免疫力の低下により再び活性化して、帯状疱しんを発症します。

川崎市における水痘発生状況（5年間）



川崎市における水痘分布マップ（第51週）



川崎市
KAWASAKI CITY

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当・
各区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）
（問合せ先）０４４－２７６－８２５０　　令和５年１２月２６日作成